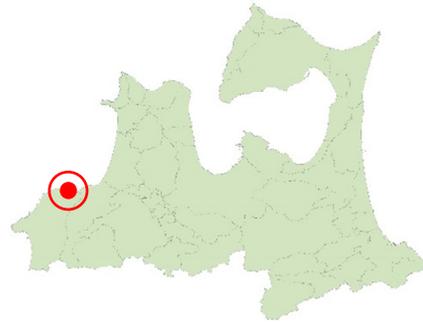


漁業者と地域住民で構築する海の安全ネットワーク

新深浦町漁協地域多面的機能発揮活動組織
新深浦町漁協海の監視ネットワーク活動組織

地域の特徴

深浦町は青森県の日本海側、津軽半島の付け根にあり、世界遺産の白神山地や十二湖などの美しい自然に囲まれた町である。町の重要な産業は漁業。漁業は、主に延縄、刺し網、底建網(定置網)漁業が営まれ、マグロをはじめ、タラやヤリイカ、ヒラメなど、様々な魚介類が水揚げされる。



地域の現状

当地区には、昭和 56 年 5 月 27 日に設立された大戸瀬救難所がある。この救難所は、海難訓練を実施するなど、長きに渡って救難救助の役割を果たしており、これまで甚大な被害をもたらすような海難事故も起きなかった。しかし、現在、救命胴衣未着用の航行・操業が散見される。また、漁業者の高齢化が進んでいることから、漁業者の意識改革と海難救助に関する技術レベルの向上が課題となっている。また、最近では、不審船等の漂流・漂着が問題視され、航行等の安全を脅かすようになってきたことから、海の監視ネットワークの強化が求められている。



組織の設立及び活動方針

上記した課題から、漁業者を中心とした組織を平成 28 年度に設立した。目的は、漁業者等の海難救助技術の向上と地域住民を巻き込む多様な組織との連携である。また、海の監視ネットワークの強化についても、平成 30 年度に新たに別組織を設立し、水域監視の連絡体制を再構築し、より安心・安全な水域の維持を図ることとした。現在は、これら目的を達するために、以下の 3 つの目標を設定し、活動に取り組んでいる。

- ・安全操業に対する漁業者の意識醸成と救難所レベルの海難救助技術の習得を目指す。
- ・関係機関等との連携を強化し、事故即応体制の確立を目指す。
- ・地域の子供たちを対象とした救命講習を実施し、地域全体での海難防止への意識の醸成を図る。

活動実績

(1)海難救助訓練

訓練内容は、現在下記の 8 つの項目で行っている。

①事故の想定

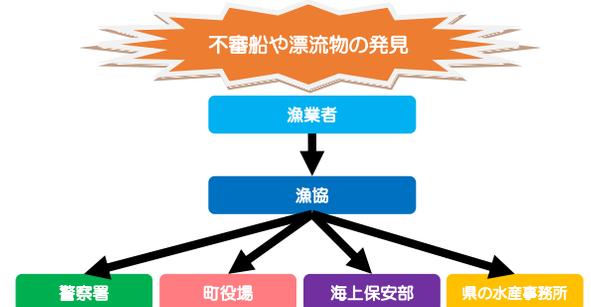
漁船同士の衝突→海中転落・火災発生→事故の無線連絡

- ②現地対策本部設置
- ③船舶による漂流者の救出訓練
- ④事故船消火訓練及び曳航訓練
- ⑤救命胴衣訓練 (海上保安部)
- ⑥人工呼吸・AED使用講習 (深浦消防署)
- ⑦海難救助の講習 (海上保安部)
- ⑧炊き出し訓練 (婦人部)



(2)監視活動

平成 30 年から開始した監視強化は、①連絡体制の再構築、②監視活動のマニュアル作成、③活動の記録と報告の強化を図ることで、出漁中の監視活動の更なる強化と、情報共有の充実、事故の削減を目指している。



監視活動の効果

監視活動の位置は下図に示す通り。拠点となる漁港から最大 50km 以上離れた海域でも監視を行っており、活動が広範囲に及んでいることがわかる。また、監視回数も 2018 年度実績で 6,410 回となっている。

こうした「監視ネットワーク強化」の取組によって、不審船等の情報をスムーズに情報伝達できるネットワークが構築され、それに対する迅速な対処が図れるようになった。

